



Yu Sora

Yu Sora

出生於韓國京畿道，1987 年生。2020 年畢業於東京藝術大學美術研究科雕塑專攻碩士課程。現於日本與韓國兩地活動。藝術家以日常生活為主題，關注那些在災害或意外中可能瞬間失去的平凡片刻。透過立體與平面作品——以黑線在白色柔軟布面上刺繡、記錄日常風景——創造出促使人們重新思考「何為日常」的空間。

Born in Gyeonggi Province, South Korea, in 1987. Graduated from the Master's Program in Sculpture at the Graduate School of Fine Arts, Tokyo University of the Arts in 2020. Based in Japan and Korea, the artist explores the theme of everyday life and mundane moments that can suddenly be lost due to disasters or accidents. Through three-dimensional and twodimensional works, which involve embroidering black threads on white soft cloth to record everyday landscapes, the artist creates spaces that prompt a reconsideration of what constitutes everyday life.

學歷

Education

- 1987 Born in Gyeonggi-do, South Korea.
- 2011 B.F.A. Sculpture, Hongik University, South Korea.
- 2020 M.F.A. Sculpture, Tokyo University of the Arts.

個展

Solo Exhibitions

- 2025 " Things lying around , Days piling up " ,TRUNK(HOTEL) CAT STREET ROOM101, Tokyo
" Memories of the Past " , WALL_shinjuku, Tokyo
- 2024 " Watermelon, Tomato " , FOAM CONTEMPORARY (Ginza Tsutaya Book store) , Tokyo
- 2023 " Mozuku, Tamago " , Shiseido Gallery, Tokyo
- 2022 " BankART Under35 " , BankART KAIKO, Yokohama
- 2021 " Ordinary Day " , Amarlab Art Lab A-labO, Hyogo
" Trivial Anniversary " , Namdong Seoul Art Hall, Incheon

聯展

Group Exhibitions

- 2025 " ART OSAKA 2025-EXPANDED " , Creative Center OSAKA, Osaka
" Speed " s Story " , Zuiun An, Kyoto
" RE: FOCUS vol.6 " , TEZUKAYAMA GALLERY, Osaka
" Yebisu International Festival for Art & Alternative Visions 2025 " , AL, Tokyo
- 2024 " Micro Salon " , CADAN Yurakucho Space, Tokyo
" THE BOOK " , WALL_alternative, Tokyo
" Daily Update " , Tokyo Shibuya Koen-dori Gallery, Tokyo
" ART NAKANOSHIMA 2024 " , Dojima River Forum, Osaka
" MEET YOUR ART FESTIVAL 2024 " NEW ERA " , Tokyo Tennozu Canal area, Tokyo
- 2023 " MEET YOUR ART FESTIVAL 2023 " , B&C HALL , Tokyo
" ART FAIR ASIA FUKUOKA 2023 " , ARINE MESSE FUKUOKA Hall B, Fukuoka
- 2022 " cloth x over " , Yokohama Civic Art Gallery Azamino, Yokohama
- 2021 " Cliffs and Stairs " , azumagaoka articulation, Yokohama

獲獎

Awards

- 2022 Sanwa company Art Award Grand Prix
- 2020 68th Tokyo University of the Arts Graduation Exhibition, Mori Prize
- 2018 Tokyo Midtown Award 2018 Excellence Award

駐村

Artist in Residence

- 2017 PARADISE AIR (Chiba)
- 2015 Rolling 1942 Project : art space hoan (Seoul)
- 2013 koganecho bazaar 2013 (Yokohama)

創作理念

我因為喜歡自己，而開始描繪屬於自己的房間與日常生活。隨著持續創作，我逐漸意識到，那些看似理所當然的日常，其實是非常脆弱的存在，即使是微小的事情，也可能讓它大幅崩塌。

透過電視與網路，我看見因災害、事故、傳染病或戰爭而失去日常生活的許多人。在我們身邊，也在遙遠的地方，「或許有一天這樣的事情也會發生在自己身上」的那份不安與恐懼，始終潛藏在內心深處。

孩子出生，並迎來了一歲生日。在新的幸福背後，也萌生了新的不安。想守護的事物愈多，害怕失去的東西也隨之增加。因微小的事情而感到喜悅，也可能因微小的事情而讓日常動搖。日常生活總是看似相似，卻在這樣的搖晃與變化之中，轉化為新的日常。

過去的我，走在街上時，總會從外頭觀察各式各樣的人家。晴天時，陽台或庭院裡晾曬的衣物；下雨天，掛在窗邊的洗衣。玄關前擺放的盆栽。

如今，我會在其中尋找有孩子的家庭身影——晾著的童裝、玄關前的嬰兒推車與玩具。即使站在人生的新階段，我仍然能在陌生人的日常中找到相似之處，並從中感受到平靜與安心。

今後，我也希望持續描繪我們這些不斷改變的日常樣貌之中，那份平和與安心感。願我的作品，能在某個人的日常動盪之時，成為邁向全新日常的一股微小力量。

Art Concept

I began drawing my own room and everyday life out of a love for myself. As I continued making works, I came to realize that what feels like an ordinary, taken-for-granted daily life is in fact extremely fragile—something that can collapse drastically even because of the smallest events.

Through television and the internet, I see many people losing their everyday lives due to disasters, accidents, infectious diseases, and wars. The anxiety and fear that such a day could come close to us—or even happen to me—always lie quietly at the back of my mind.

My child was born and has now turned one year old. Alongside this new happiness, new anxieties have also emerged. The more there is to protect, the more there is to fear losing. We rejoice over small things, and our daily life can be shaken by small things as well. Everyday life may appear similar each day, yet it wavers, changes, and becomes a new form of everyday life once again.

In the past, as I walked through the city, I would look at people's homes from the outside: laundry hung out on balconies or in gardens on sunny days, laundry drying by windows on rainy days, flowerpots placed by the front door.

Now, I find myself noticing families with young children—children's clothes hanging to dry, strollers and toys placed near the entrance. Even as I stand at a new stage of life, I continue to find familiar elements in the everyday lives of strangers, and in doing so, I feel a sense of peace and reassurance.

Through the many changes our everyday lives will continue to undergo, I want to keep depicting that sense of peace and security found within them. I hope that my work can become a small source of strength, helping someone move forward into a new everyday life when their own daily world begins to waver.



One Art Taipei 2026



展位 | Room 1201

藝術家 Artist | 林書楷 Shu-Kai LIN、孟克波洛兒·干波爾德
Munkhbolor Ganbold、Tez KIM、Yu Sora

展期 Duration | 2026.1.16 (Fri.) - 2026.1.18 (Sun.)

1.16 (Fri.) 12:00-19:00 藏家預展 Collector Preview

1.16 (Fri.) 14:00-19:00 貴賓預展 VIP Preview

1.17 (Sat.) 11:00-19:00 公眾開放 Public Days

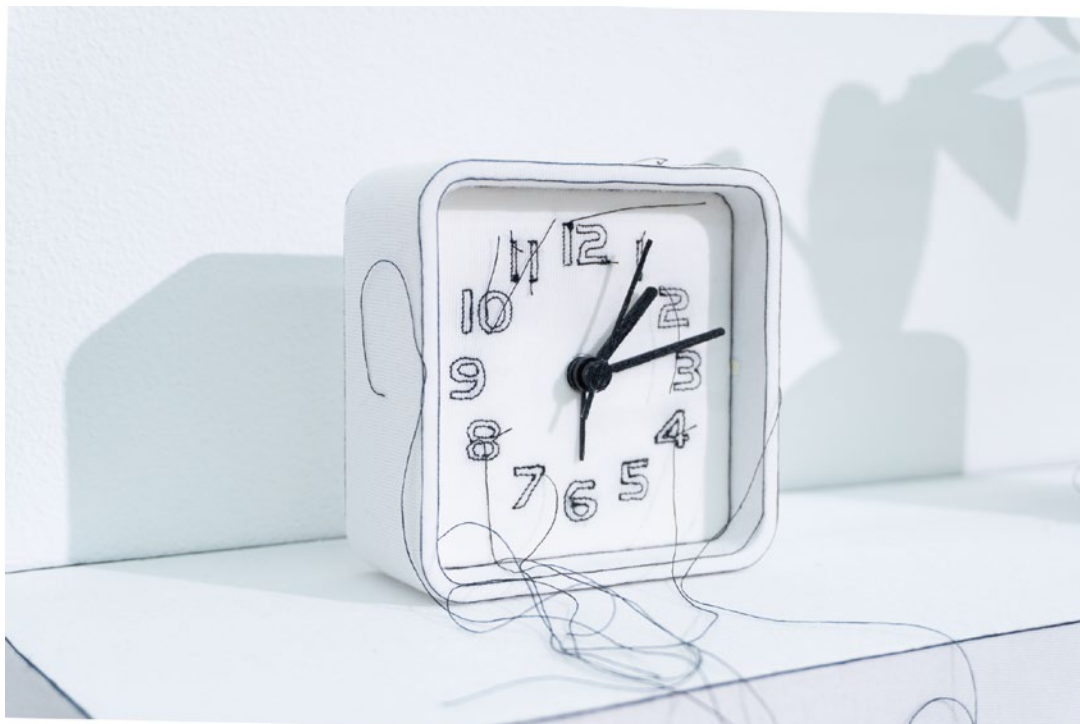
1.18 (Sun.) 11:00-19:00 公眾開放 Public Days

地點 Venue | JR東日本大飯店 台北 (台北市中山區南京東路三段133號)
Hotel Metropolitan Premier Taipei (No. 133, Sec. 3, Nanjing E.
Road., Zhongshan District., Taipei City)



展出作品

Exhibited Works



時鐘
Clock

2025

H9 x W9 x D4.5cm
複合媒材 Mixed Media



運動鞋 26cm
Sneakers 26cm

2025

尺寸依場地而定 Variable
複合媒材 Mixed Media



Paperlunch

2024

H44 x W32cm

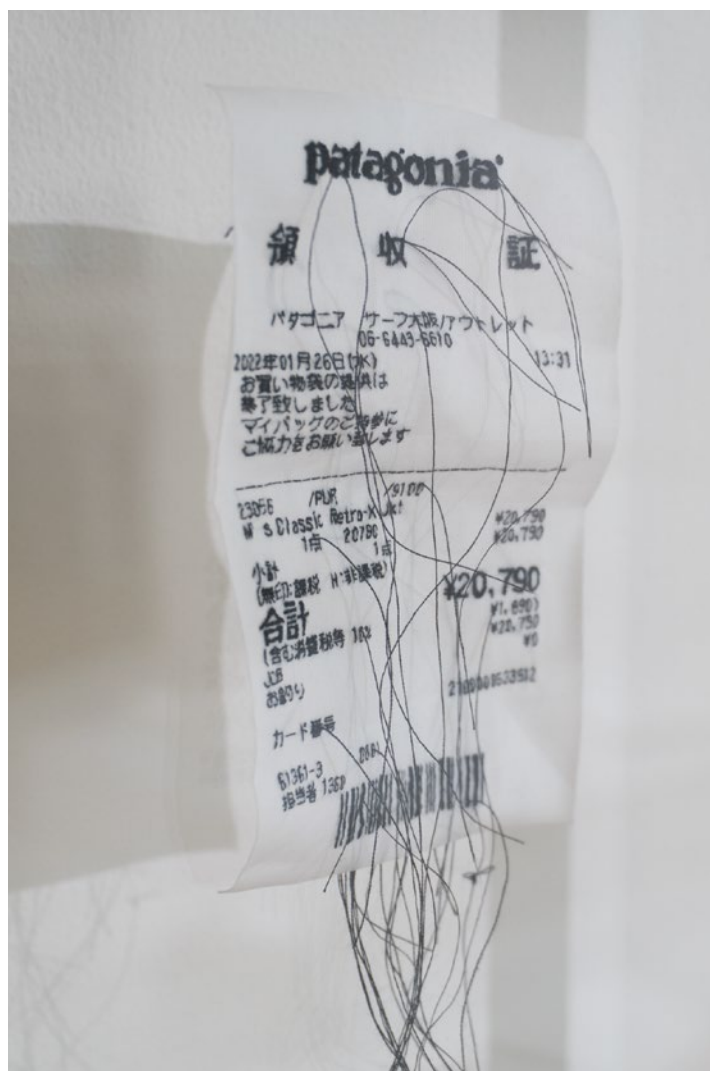
複合媒材 Mixed Media



椅子上方的植物
A Plant on a Stool

2024

尺寸依場地而定 Variable
複合媒材 Mixed Media



紀錄的日子:毛茸茸
Recorded Days : Fluffy

2025

H13 x W8cm
複合媒材 Mixed Media



杯子和書
Cup and Book

2025

尺寸依場地而定 Variable
複合媒材 Mixed Media



龜背芋和書
Monstera Plant and Book

2025

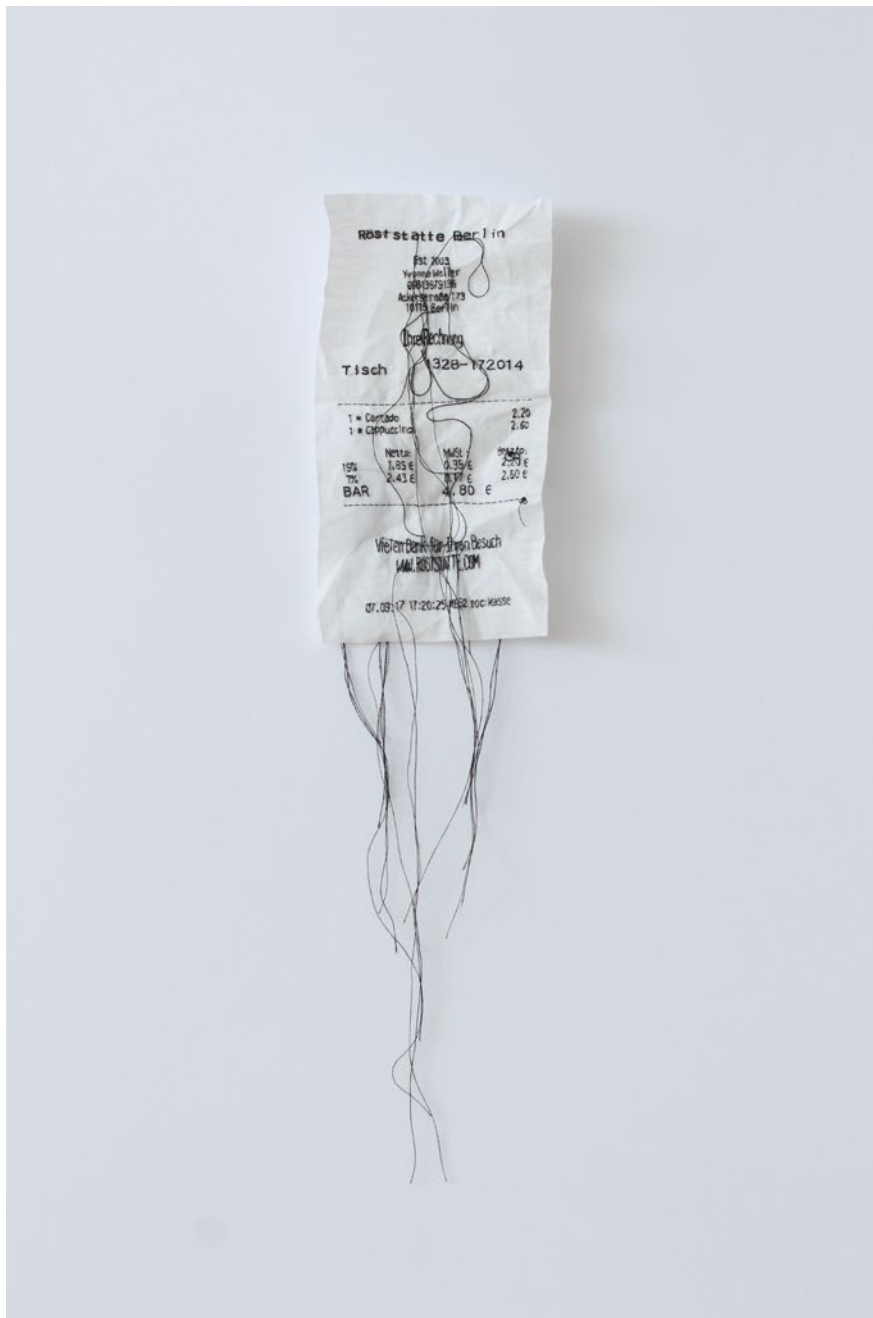
尺寸依場地而定 Variable
複合媒材 Mixed Media



下午茶時間：早餐(1)
Tea Time: BREAKFAST(1)

2025

H20 x W20 x D3cm
複合媒材 Mixed Media



紀錄的日子:Cortado Recorded Days:Cortado

2025

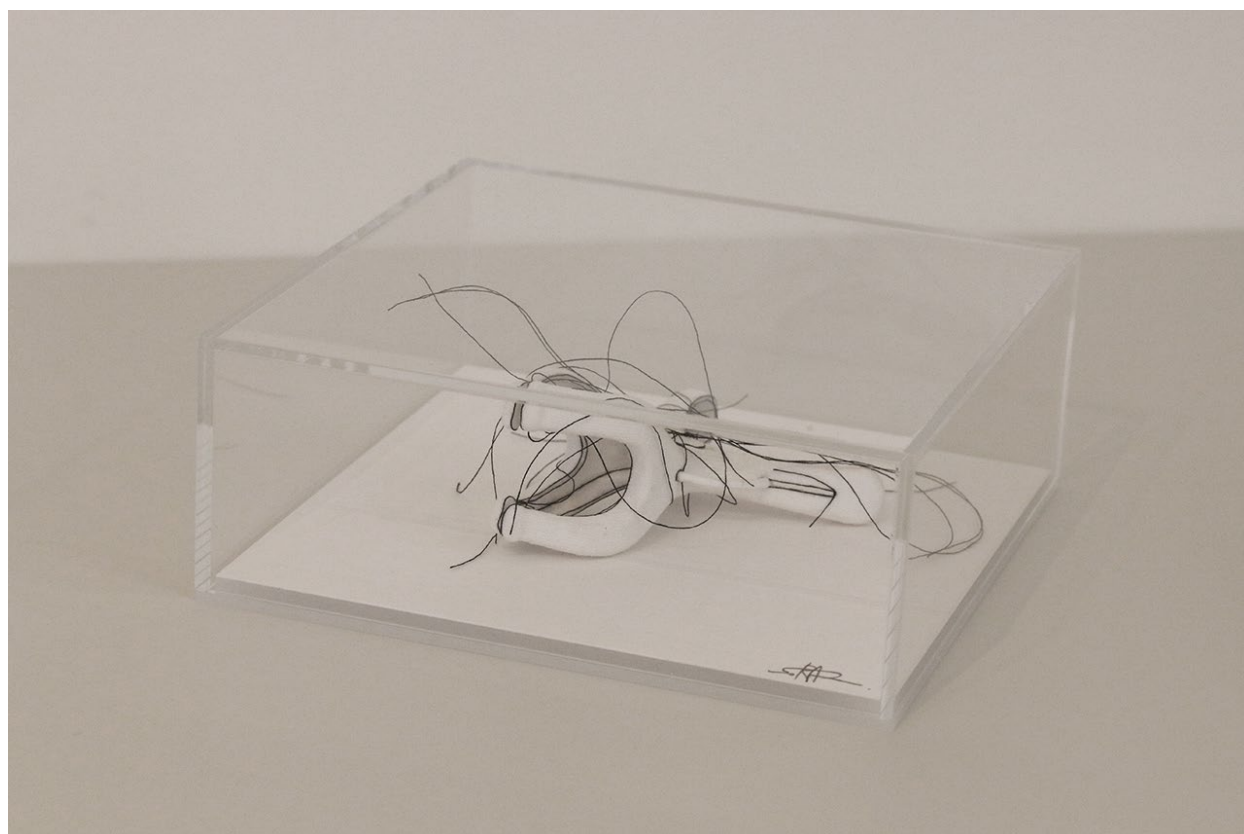
H15 x W8cm
複合媒材 Mixed Media



晾衣夾
Clothespin

2025

H6 x W4.5 x D1cm
複合媒材 Mixed Media



晾衣夾
Clothespin

2025

H8.3 x W7 x D1cm
複合媒材 Mixed Media



鏡和書
Mirror and Book

2025

尺寸依場地而定 Variable
複合媒材 Mixed Media



夾子
Clip

2024

H7 x W 7 x D4.5cm
複合媒材 Mixed Media



下午茶時間：檸檬與青檸
Tea Time: Lemon & Lime

2021

H20 x W20 x D2cm
複合媒材 Mixed Media



襯衫
Shirt

2017

Man Size M
複合媒材 Mixed Media



摩卡壺
Moka Pot

2012

H13 x W9 x D18.5 cm
複合媒材 Mixed Media



噴霧瓶
Spray Bottle

2012

H13 x W9 x D18.5 cm
複合媒材 Mixed Media



過去展覽

Previous Exhibitions

【第16回 shiseido art egg 連動企画】 アートの新しい目 Vol.2 YU SORA

文 / 住吉智恵

資生堂ギャラリーが、新進アーティストによる「新しい美の発見と創造」を応援する公募プログラムとして2006年にスタートしたshiseido art egg (シセイドウアートエッグ)。第16回となる本年度は、岡 ともみ (おか ともみ) さん、YU SORA (ユ ソラ) さん、佐藤 壮馬 (さとう そうま) さんの3名が選出され、2023年1月24日 (火) ~ 5月21日 (日) にかけて個展が開催されています。現代を生きるアーティストたちが不確実・不安定と言われるこの時代にアートを通じてメッセージすることとは――。

3名それぞれの活動と今回の展示について、そして今考えることについて、アートジャーナリストの住吉智恵さんがお話を聞きました。

Vol.2はYU SORAさんです。

Vol.2 YU SORA

かけがえのない自他の日常から、安寧と平和を感じる救いの経験。

YU SORAは、白い布と黒い糸を使った刺繍やミシンによるドローイングの平面作品と、家具やカーテン、寝具、雑貨などを原寸大で再現した立体作品を組み合わせたインスタレーションを展開してきた。

YUの作品は、キッパリと潔く白と黒だけを使い、きわめてストイックな印象を与えるにもかかわらず、人の肌や体温と親和するような柔らかさと温かみを帯びている。



第16回shiseido art egg YU SORA展「もずく、たまご」
撮影：加藤健



「日々を重ね、」2022 ミクストメディア

ART OSAKA Expanded 2025



地點 Venue |

Creative Center OSAKA (CCO)

4-1-55 Kitakagaya Suminoe-ku Osaka 559-0011 JAPAN

展期 Duration |

2025.06.05 (Thu.) 13:00 pm–19:00 pm

2025.06.06 (Fri.) 11:00 am –19:00 pm

2025.06.07 (Sat.) 11:00 am –19:00 pm

2025.06.08 (Sun.) 11:00 am –19:00 pm

2025.06.09 (Mon.) 11:00 am –17:00 pm



Installation View of the Exhibition in ART OSAKA 2025

当初、作家が韓国出身と知ったことも相まって、本作のイメージの連想は2つの方向へと導かれた。

そのひとつは、同じく韓国出身の世界的美術家スウ・ドーホーによる、薄布で精巧につくられた実物大のソウルの生家やニューヨークのアパートのインスタレーションから受けた距離を超えた親密感だ。

もうひとつは、大切なものを薄布で包む韓国の伝統文化「ポジャギ」である。10世紀高麗の時代に貴族によって洗練され、庶民に広がったポジャギは、女性の手でひと針ごとに家族の安寧の祈りを込めてつくられ、大切なものを「幸福」と共に包むために使われてきた。

YUの個展では、展示空間に部屋をつくり、室内にはアイテムもサイズもさまざまな作品たちで組み合わされたインテリアが展開される。銀座の老舗ギャラリーにしてはちょっととぼけた心惹かれる展覧会タイトルは、「もずく、たまご」。ある日、YUが家に帰り着いて、ポケットから取り出したコンビニのレシートに書かれていた商品名だという。家のあちこちに転がっているゴミにすぎない小さな紙片にさえ、人それぞれの日々が記録されている。そんな些細な日常のありようを白い布に黒い線で描き出し、私たちが今生きる現在地の輪郭をなぞる。YUの創作の営みのなかに鑑賞者は個人の日常を重ね、その尊さや愛おしさに思いをめぐらせるだろう。

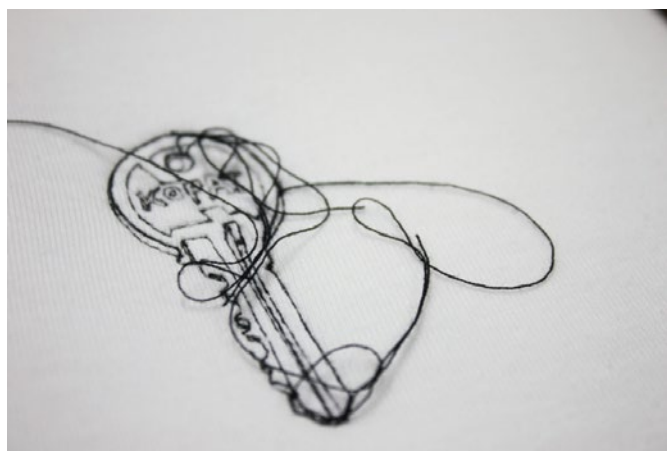
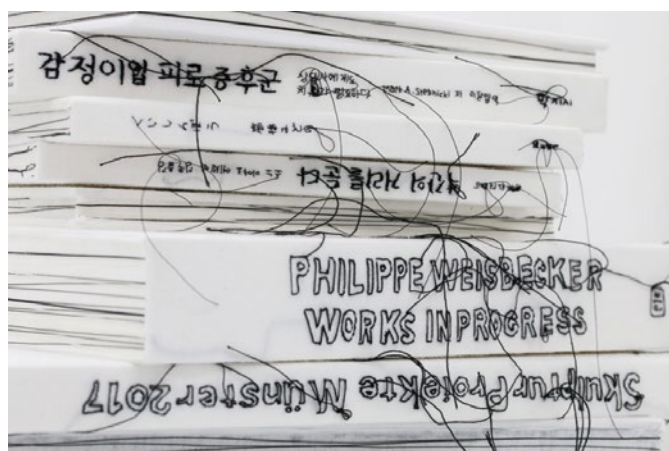


「もずく、たまご」 2023 ミクストメディア

「散らかっていて自分の部屋をノートにボールペンで描いたことがこの作品のきっかけです。温かい雰囲気をつくりたくて、いろいろな素材を試しました。この布の柔らかい質感やボリューム感を生かすには、白と黒だけで十分ではないかと思いました。少し散らかっているくらいの部屋が心地よいという人は多いですが、そこに特定の色彩があると共感できないとも思います。白い空間に観る人自身の日常を塗り絵のように重ねてほしい」

誰もが日常のなかで、日々ものの置き方を変えている。その生活行動を反映して、家具の上など身の回りの小さなものの置き場所や配置を変え、増やしたり減らしたり、インスタレーションの度に部屋の姿を変えている。

宅配ピザの箱、積み上げた読みかけの本、牛乳パックや家の鍵、リモコンやゲームコントローラ。無造作に置かれた品々の佇まいは、それらの細部を精緻に再現する黒い糸をあえて処理せず、しどけなく垂らしたまま残すことで揺らぎが生まれ、刻々と流動する人生の刹那をくっきりと際立たせる。



「帰るところ」2020 ミクストメディア インスタレーション 「かぎたち」2017 布、糸、紙

韓国の大学では繊維美術科で、テキスタイルや工芸など韓国の伝統的な服飾文化とファッションデザインを学んだ。

「布の素材で何をつくっても自立しないことにイライラが溜まって」、YUは第2専攻として彫塑科も学ぶ。立体作品をつくりたいという強い関心から、中綿を詰めたぬいぐるみを制作し、吊るすという手法に行き着いた。

やがて、創作活動の先が見えないと感じていた頃、2011年に日韓合同卒業制作展で横浜に滞在。渋谷駅で東日本大震災を経験した。

「その頃、まだスマホもなく日本語もわからなかったので、東北で何が起こったのかを理解するには、帰国してから長い時間が必要でした。このとき多くの人の日常が一瞬で失われたことは、日常について深く考えるきっかけになりました」

2014年、韓国で大型旅客船セウォル号の転覆・沈没事故が起こる。300名近くもの修学旅行中の高校生が犠牲になり、韓国史上もっともいたましい惨事のひとつとなったこの出来事は、YUにとって「初めて死を近く感じ、自分の無力さに落ち込む」経験となった。

「自分の生活だけでなく、街を歩いて、知らない人の家のカーテン越しの気配や、ベランダの植木や猫の様子からほかの人の日常を見るようになりました。普遍的な日常の記録を研究して、多くの人が共感できるような表現ができたと思うようになったんです」

その後、日本での活動の機会が繋がり、アーティスト・イン・レジデンスやグループ展への参加を経て、東京藝術大学大学院に留学。同大学院美術研究家彫刻専攻を修了し、現在は東京で夫と暮らす。本展の会期中には新しい家族を迎える予定だ。

一方、コロナ禍の数年間には、YUの日常をめぐる視点も微妙に変化したという。



第16回shiseido art egg YU SORA展「もずく、たまご」

撮影：加藤健

「（ステイホーム期間は）息苦しさも感じましたが、Instagramに投稿されるインテリアや、家の外に出された粗大ゴミからも多様な人々の生活を垣間見ることができました。自分がもっていない家具や食器を作品制作に取り入れたり、さまざまなジャンルの本の背表紙を描いたり、誰かのものでなく、広く共有することのできる部屋の表現を試しています。展示空間のなかに、観る人自身の興味に引っかかるものを見つけてほしい」



第16回shiseido art egg YU SORA展「もずく、たまご」

撮影：加藤健

震災や事故、コロナ禍を経て、私たちはふだん何気なく過ごしている日常が簡単に崩れてしまう脆いものであることを知った。自宅はもちろん仮設住宅、避難所といった生活の拠点とその質の大切さについて、以前よりも真剣に考えるようになった。

現在、震災に襲われたトルコとシリアや戦禍のウクライナの人々の置かれた状況を想像すると、「日常」と「非常」は隣り合わせなのだと思うざるを得ない。

「私にできることは、今を生きている人たちが日常の大切さに気づくような作品をつくり続け、発信することなのではないか」。YU SORAはそうステートメントを記している。

非常事態下、YUにとって、また多くの人にとって、街歩きやSNSなどを通して、他者の日常から安堵感や平和を感じとることは大きな救いになった。

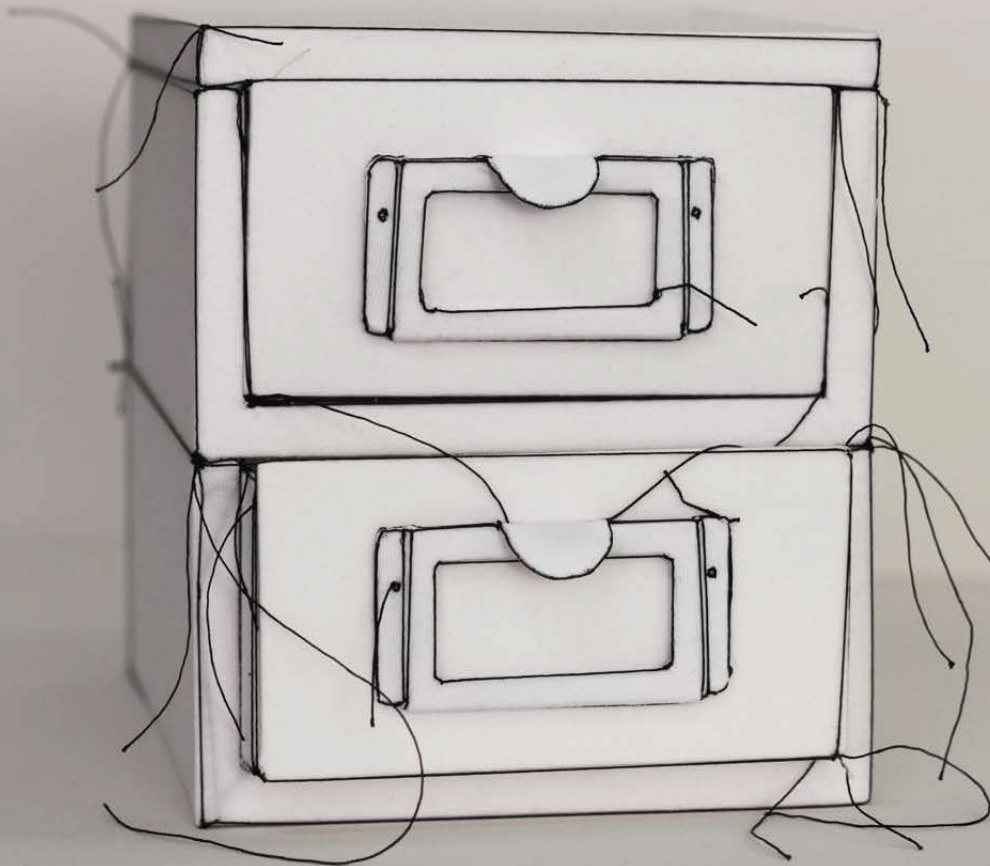
本展はその経験をあらためて反芻しながら、かけがえのないその日常の価値を、いかにすれば価値観や立場、思想の異なるもの同士が共有することが可能なのか、そんな問題意識にも繋がるはずだ。



YU SORA
Well Messed Room



YU SORA
Well Messed Room



Drawer_14x19x16cm_mixed media_2012



Pillow, 2015, Mixed Media, H45 x W65 x D25cm



Tiny Things

2015

H73 x W73cm

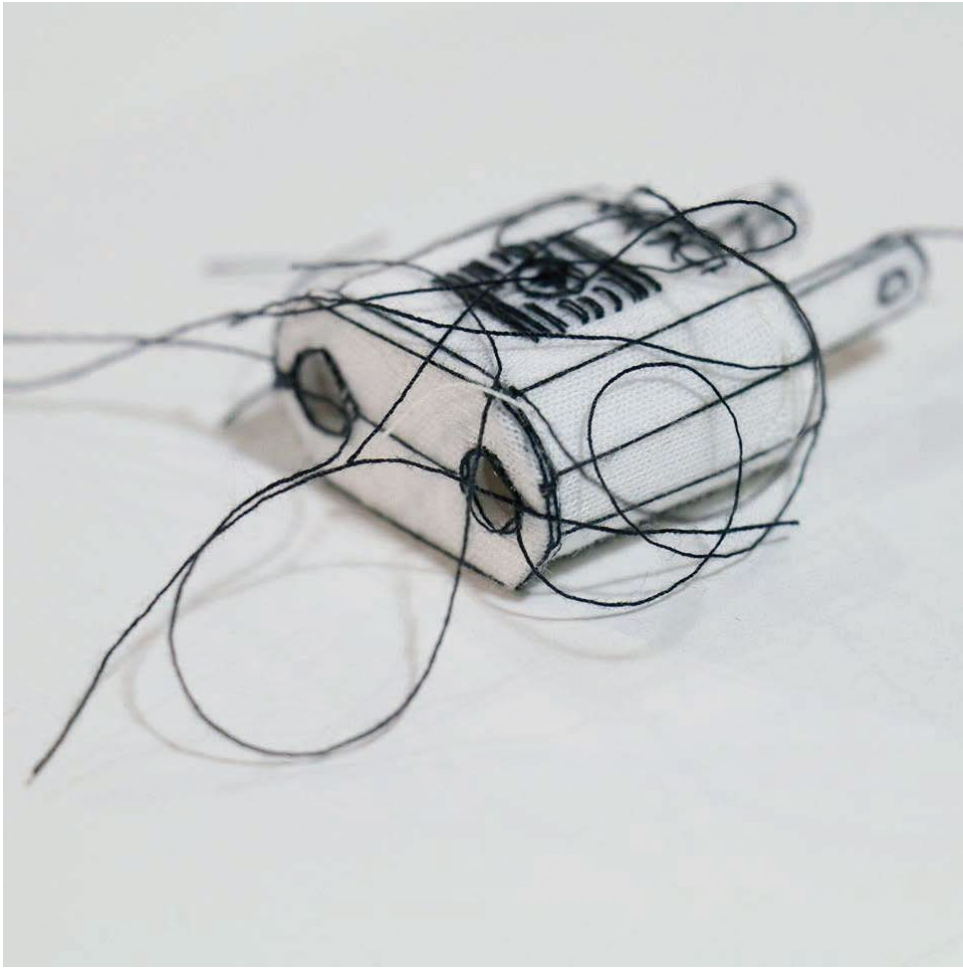
複合媒材 Mixed Media



Things on the desk

2015

複合媒材 Mixed Media



Things on the desk

2013

複合媒材 Mixed Media

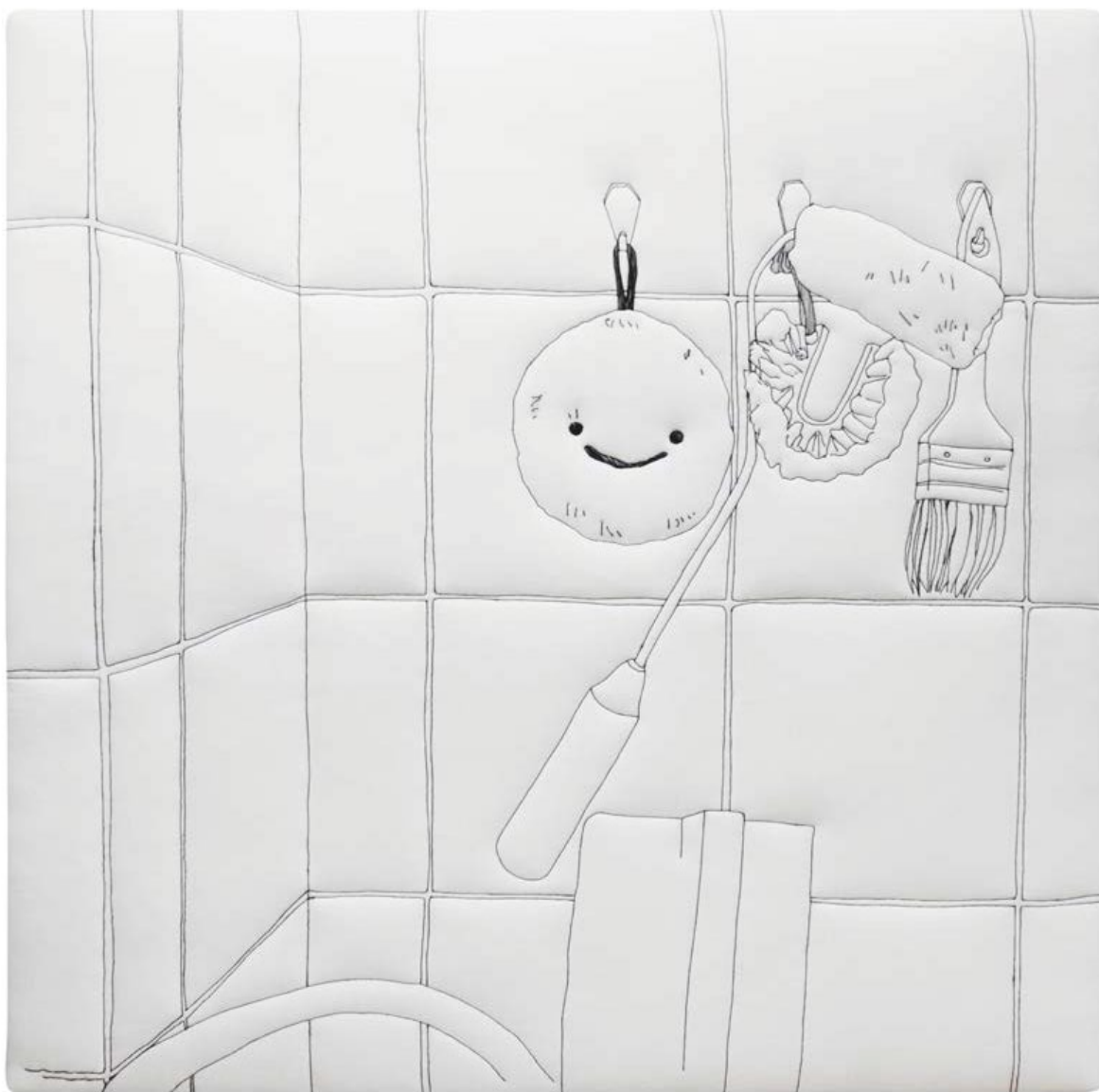


Beyond Uncared

2013

H92 x W92cm

複合媒材 Mixed Media



GRRN

2013

H92 x W92cm

複合媒材 Mixed Media



A Moment ago

2013

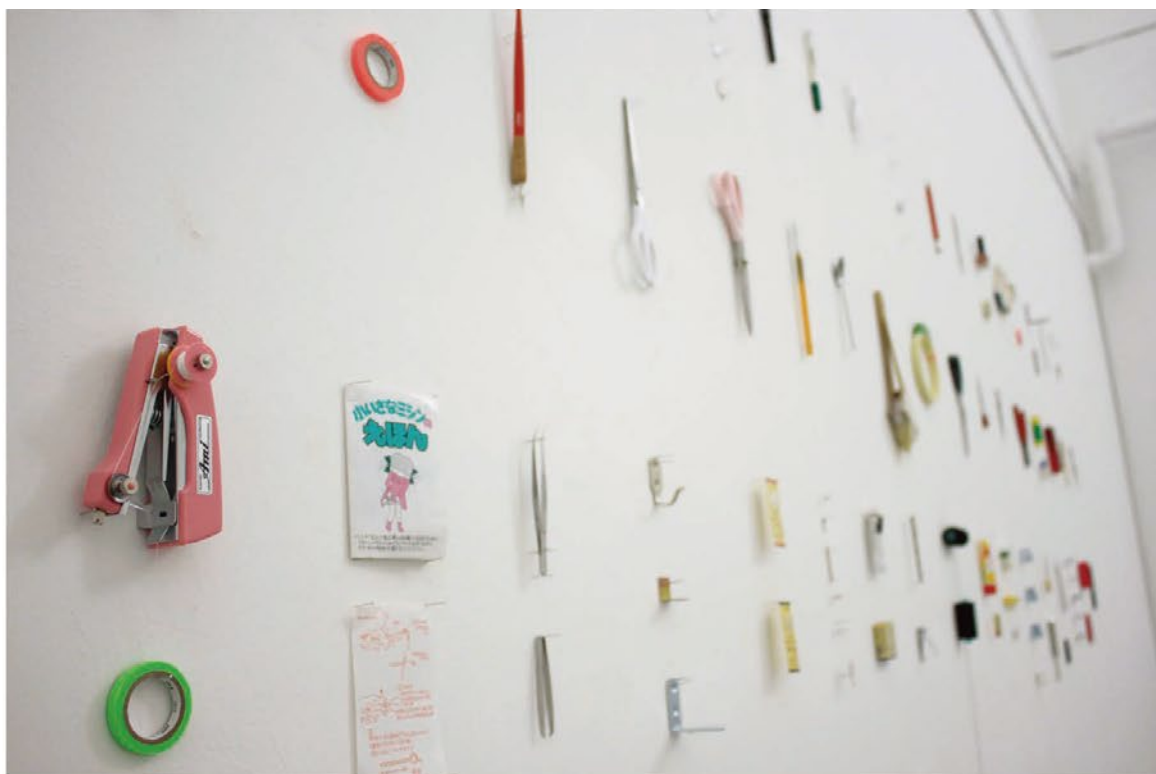
H112.1 x W112.1 cm
複合媒材 Mixed Media



Things in Toolbox 2013

Installation
H112.1 x W112.1 cm

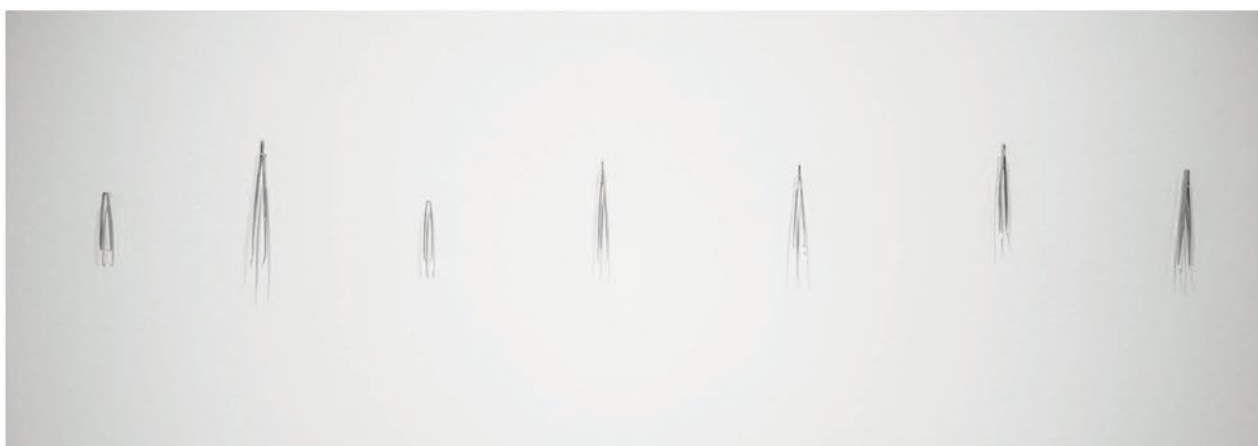




Things in Toolbox

2013

H112.1 x W112.1 cm
Installation



Red items/Tweezers/Yellow items

2013

Installation



Recorded days

2013

Installation



Recorded days

2013

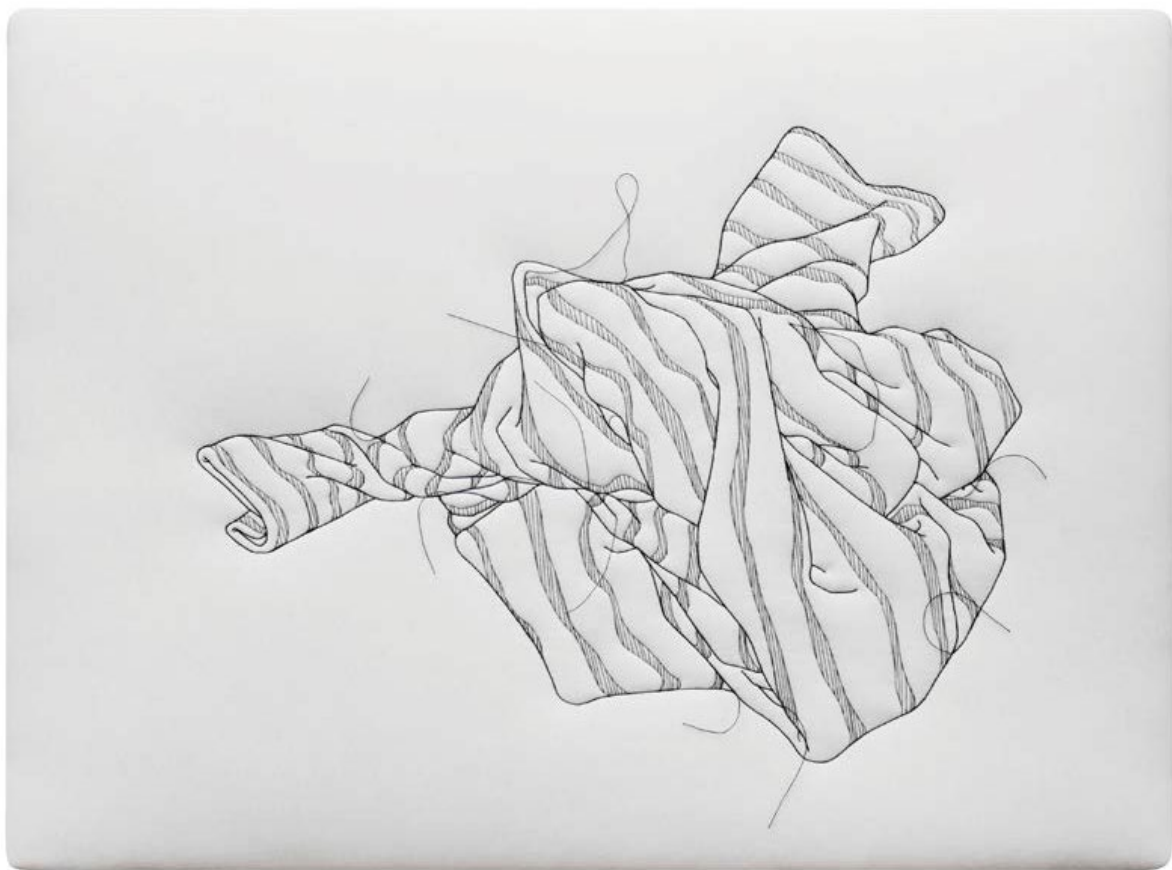
Installation



Piled up days

2013

H20x W20cm (each)
Installation

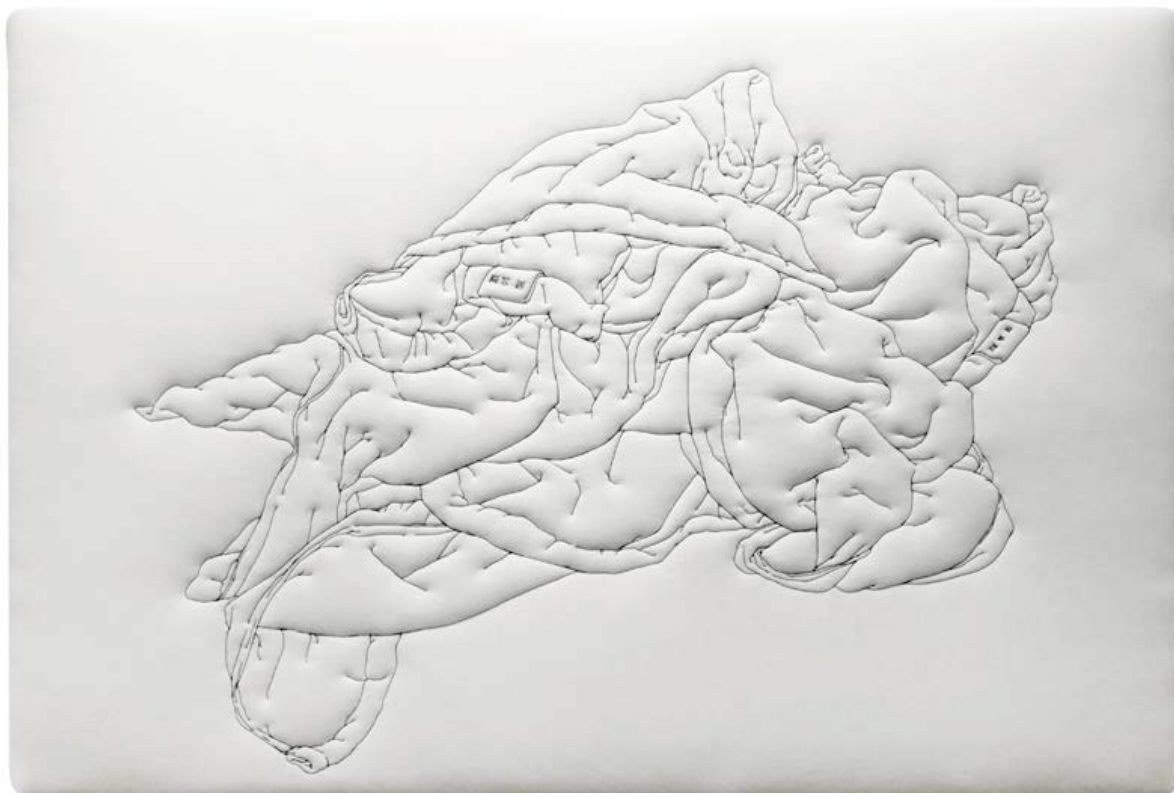


Piled up days

2013

H63x W46cm

複合媒材 Mixed Media

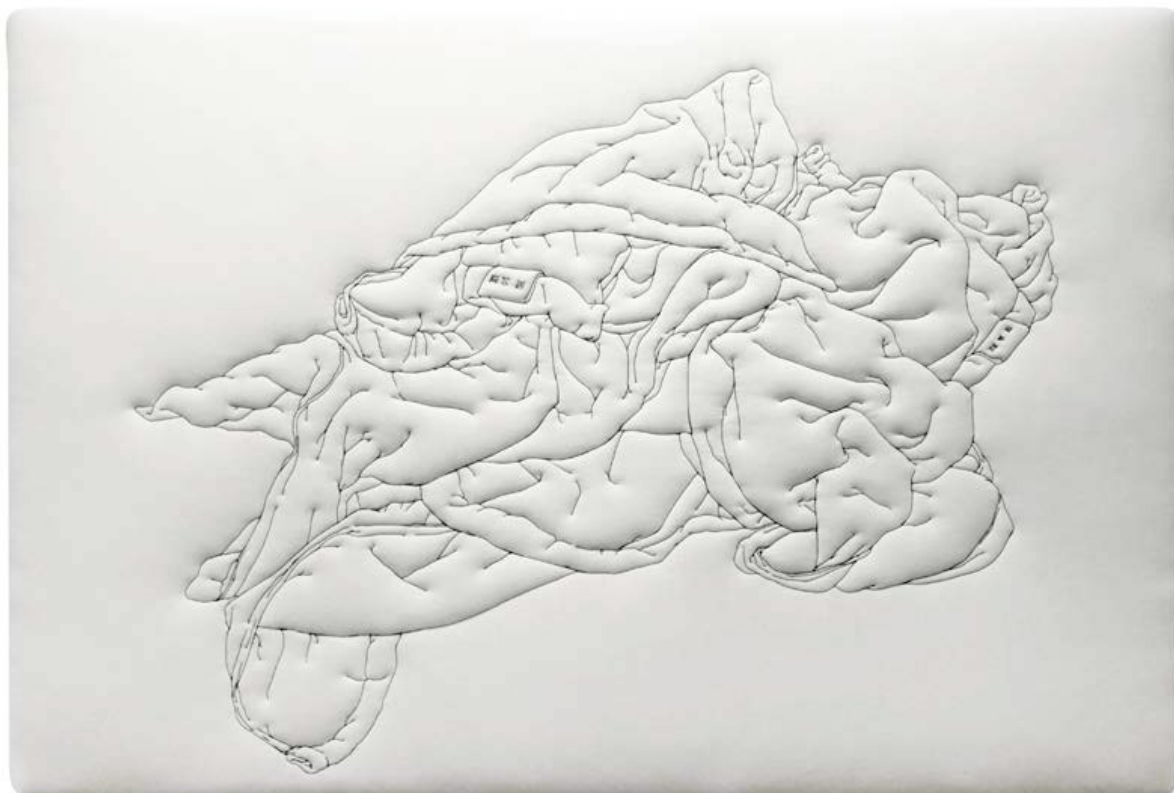


Piled up days

2013

H117x W80cm

複合媒材 Mixed Media



Piled up days

2013

H130.7x W93cm

複合媒材 Mixed Media

Greed and desire to do something. There is a Korean word 욕심(Yok-sim) which covers both greed and desire. I draw both of the yok-sim. Objects and stories that came from my small yok-sim will fill my room or atelier even when I am not there. People's private places are made up of their yok-sim. Those with more yok-sim make their private places more unique and special. I look at the world which is made of yok-sim and its existence in various points. Then I express it positively in the way it is. The small child in the work of art sometimes seems to be having fun even when she is experiencing unmanageable capacity. It is because it is not about greed that is threatening her but it is greed of love, attachment, energy and self.

My house, my room, my space in the atelier, my drawer.

Whether I am there or not, they stay there and embrace me by being 'my place'. Even now, the stories about the filled-up things in my places identify my existence.

Would people who visit my messed-up room understand any affection of my house to me, what this place means to me, or why the objects that seem useless are standing in particular places? Would people understand it even after I explain it to them? I am not trying to show how messy the room is, not trying to put some meaning in brand item. I am trying to talk about memories and stories that is filled inside the object. It is hard to answer back if someone asks me what the meaning of the object is. Instead, I would prefer to be asked of the object's story because the object is not filled with meaning but story. After a long vacation, it is hard to remember every moment time to time, but it will be easier by opening your luggage and telling stories using the objects you brought. Objects help you to reminisce your everyday life and moments. It is better than dozens of diaries for vivid remembrance.

Could anyone see the scene and recognize whether it is tidy or messy within my feeling? I am not hoping that someone would get great attention to my coffee mug. No one will write diaries hoping some would peek at it (Maybe yes in social media). My work is like a diary. Not a day by day diary but a record of places and objects. Each object holds a story of the time it has been with me. My room becomes special place by being unexplainable without the filled-up objects in my room. Everyday my bag will be a small room filled up with many stories brought from home. Tables at a café where I stayed will be my place by laying objects I take out from the bag. Starting from place where I live, where I pass, stay and experience will be drawn as my everyday moment and will eventually become special stories.

Replacing drawing on the paper to pillow canvas.

Like someone who uses drawing or sculpture for a realistic effect, I use quilting cotton and lines of needlework to show the work with slight solidness. Lights can turn a drawing only with lines into a picture with realistic shade.

Like trivial lines in the pencil drawings, hanging threads are made while drawing with sewing machine. But it is not fixed so new stories can be made every time. White canvas under the light sometime exposes a face, or becomes a picture with a different feel. The objects have uncountable amount of characteristic colors. But I only draw warm existence or the energy of them instead of confusing collection of colors because they are all my

precious stories and traces. Soft and warm mass is my affection for yok-sim. I am taking them out from a twodimensional paper to a three-dimensional real life. By doing so I expect to making unseen yok-sim, affection and memories to possess actual volumes in the real life.

